

「新しい東北」官民連携推進協議会  
令和2年度  
福島県意見交換会(第1回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局  
2020年6月10日

# ● 目次

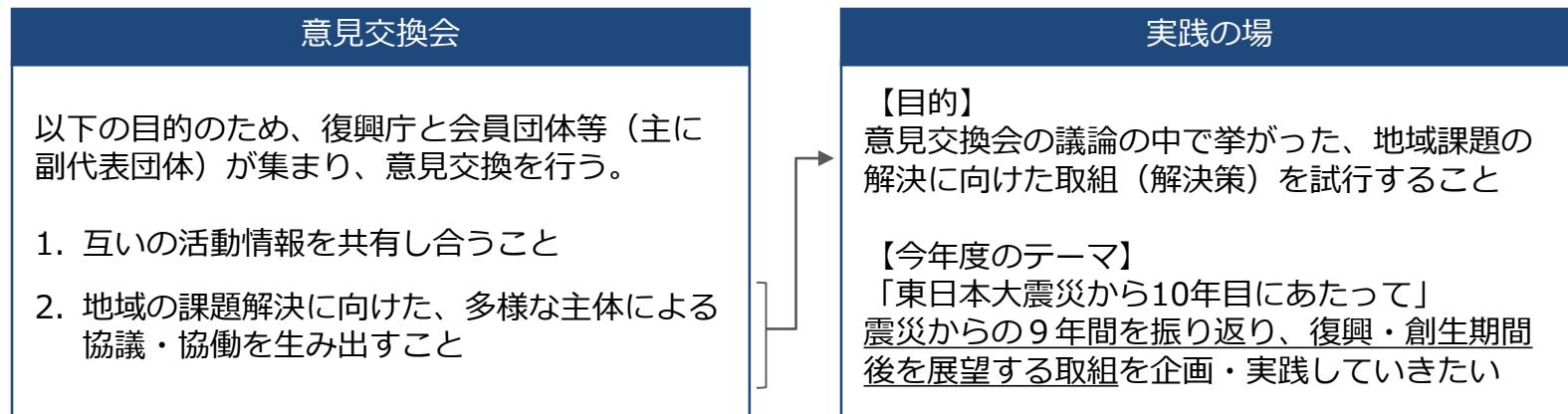
---

1. 今年度の意見交換会の方向性  
    (参考) 過年度の振り返り
2. 今年度の意見交換会の進め方
3. 実践の場の企画背景
4. 実践の場企画案

# ● 1. 今年度の意見交換会の方向性

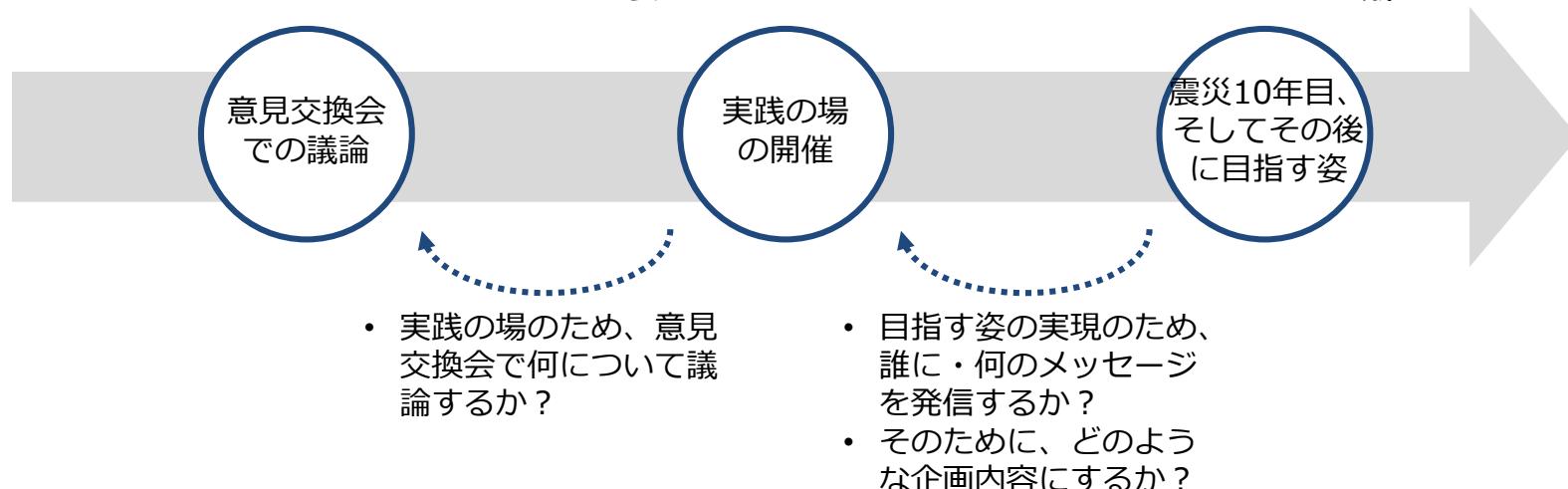
今年度は東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や、そのための意見交換会での議論を組み立てていきます。

## ■ 意見交換会、実践の場とは



## ■ 今年度の方向性

東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や意見交換会での議論を組み立てる



## ● (参考) 過年度の振り返り

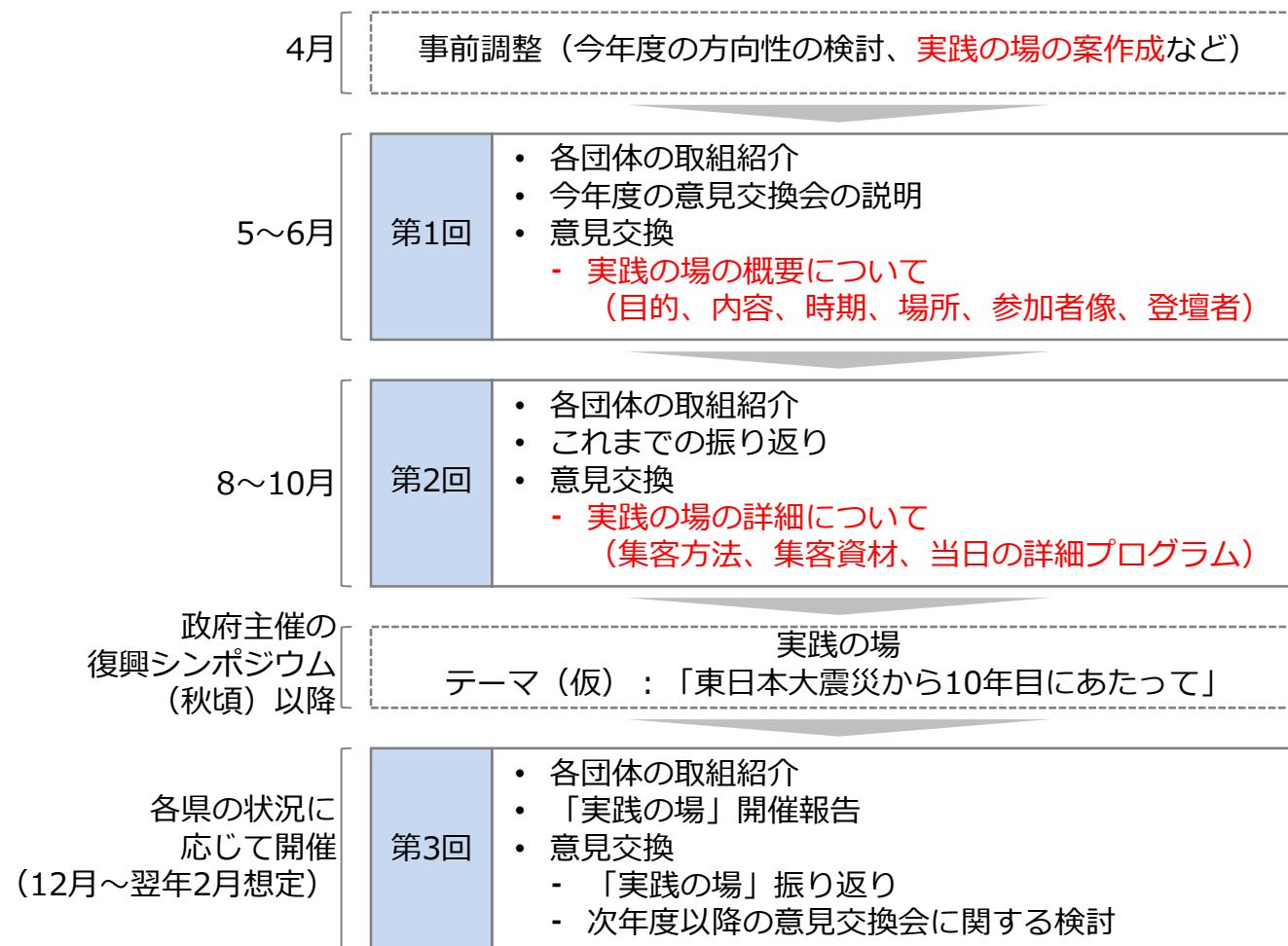
平成29年度～30年度は日本酒を含む地場産業の担い手確保をテーマに議論し、令和元年度には福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進のため、高校生・大学生向けに県内の魅力的な働き方を知ってもらう「ふくしまキャリア探求ゼミ」を開催しました。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
テーマ	人材×日本酒（日本酒を核にしたネットワークづくりの検討）	食・観光・伝統工芸など、地場産業の担い手確保	福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）
意見交換会	・全5回の意見交換会を実施	・全3回の意見交換会を実施	・全3回の意見交換会を実施 ・第2回、第3回には連携対象団体としてNPO法人コースターが出席
実践の場	<b>■福島県产品・伝統工芸品のPR (福島市(福島県観光物産館))</b> <b>■アイデアソンの開催 (東京都千代田区)</b>  福島では日本酒と酒器の組み合わせ商品の展示・販売を実施。 東京では伝統工芸品を生活に浸透させることや、Made in Fukushima商品をつくることのアイデアソンを実施。	<b>「ふくしまキャリア探求ゼミ ～ふくしま新しい働き方・チャレンジの仕方について知ろう～」(福島市)</b>  福島県にU/Iターンをして新たな生活 ・仕事のスタイルを確立した先駆者の実体験を伝え、理解を深めてもらうためのワークショップ	<b>「ふくしまキャリア探求ゼミ ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～」(福島市)</b>  福島県内在住の高校生・大学生に対し、県内には魅力的な仕事・働き方が多くあることを知ってもらうために、県内で活躍しているゲストと対話し、学生自身が将来を考えるワークショップ

## ● 2. 今年度の意見交換会の進め方

昨年度同様、全3回の意見交換会と実践の場を開催予定です。

ただし実践の場を秋以降の早い時期に開催できるよう、昨年度より前倒し、第1回には概要を、第2回には詳細を決定する段取りで進めます。



\* 赤字部分は令和元年度からの変更箇所

### ● 3. 実践の場の企画背景

これまでに挙がった意見を整理すると、実践の場の企画は以下4つの案が考えられます。

振り返りのみならず今後を展望することが、他案に比べ、福島県の復興・創生への影響度が高いと思われるため、案1をベースに深掘りしていく方向となりました。

関心事や課題認識 ※過去に意見交換された内容を中心に整理

#### 「新しい東北」の成果を発信

大震災を契機に生まれた、企業やNPOと行政のより対等な関係性や、地方創生の先駆けの取組などの成果を振り返り、他地域にも展開できるように発信すべき

#### 復興支援に対する感謝を発信

これまでに日本全国や海外から受けた様々な復興支援に対する感謝を伝えるとともに、復興を進めている福島の姿を知ってもらいたい

#### 福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進

学生向けに進学や就職をより意識した実益重視の内容にする、又はメインターゲットを保護者・学校の教員・若手の社会人などに変えることが有効

目指したい姿（仮説）

県内の事業者等が過去の事例・知見をもとに学び・支え合いながら復興に取り組むこと

過去の事例・知見が一般化・モデル化され、全国展開されていること

他地域との絆を改めて強め、引き続き復興への協力を得ること

魅力的な暮らし方・働き方のある地域として県内外で認知され、住む人が増えること

実践の場の企画案

1 過去の事例・知見から互いに学び、今後の取組を展望するイベント

2 過去の事例・知見を総括するイベント

3 感謝重視のイベント

4 ふくしまキャリア探求ゼミ ver.3

案1を  
深掘り

## ● 4. 実践の場の企画案

案1（過去の事例・知見から互いに学び、今後の取組を展望するイベント）では、以下のような企画を想定しています。まずは企画の中心となる目的・内容・参加者像についてご意見ください。

### ■ 「東日本大震災からの復興における多様な主体の取組 ～東日本大震災から10年の経験を明日の挑戦へ」概要

#### 目的

- (1) 震災から10年目の節目を迎える年であり、かつ、復興・創生期間の最終年であることから、同協議会メンバー等が、今日に至るまでの活動を振り返るとともに、各自の知見・技能を互いに共有することにより、震災からの復興に向けた今後の取組につなげる。
- (2) 「課題先進地」の福島として地域内に蓄積された事例・知見を全国の協議会関係者等で共有することも目的とする。
- (3) 浜通り地域の復興事例を中心に据え、他地域も含めて意見交換を行う

#### 内容

テーマ毎に2名程度が全体に向けてミニプレゼンを行った後、テーマ毎のグループで意見交換を実施。その結果を全体会で共有。**※詳細はP.7-8**

#### 参加者像

協議会会員（+会員傘下の企業等）、過去に協議会の表彰等を受けた者、その他 有識者や若者

#### 協力者

ミニプレゼンの登壇者（「新しい東北」関連の表彰者等）

#### 手法・形式

- ミニプレゼン
- 意見交換（テーマ毎に実施）
- 全体会（意見交換の結果発表）

**※詳細はP.9**

#### 場所

浜通り（候補：Jヴィレッジ）  
+オンライン

#### 時期

11月～12月頃、平日

#### 主な論点

目的達成のため、どのようなテーマ設定でミニプレゼンや意見交換を行うのがよいか？ (P.7)

目的達成のため、ミニプレゼンや意見交換の内容・アウトプットはどのようなものがよいか？ (P.8)

ミニプレゼンや意見交換には、どのような方に参加してもらうのがよいか？

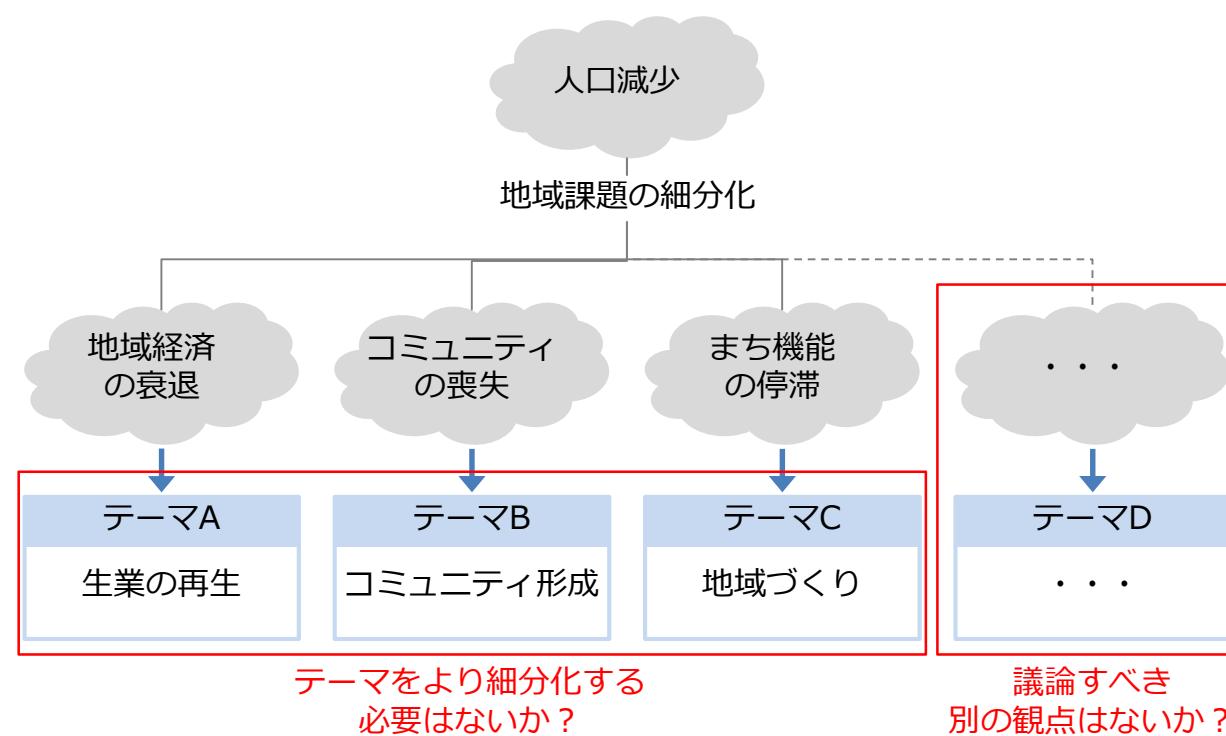
新型コロナウイルスの影響を受けると仮定した場合、手法・形式はどのように変更するとよいか？ (P.9)

## ● 4. 実践の場の企画案 ー ミニプレゼン・意見交換のテーマ

現時点では、ミニプレゼンや意見交換のテーマを「生業の再生」「コミュニティ形成」「地域づくり」の3つに設定しています。企画の目的に合わせて、どのようなテーマ設定がよいかご意見ください。

テーマ設定の例

東日本大震災および福島第一原発事故により、福島県（特に浜通り）では  
避難指示が発出され急激な人口減少が進み、  
地域経済の衰退・コミュニティの喪失・まち機能の停滞などの  
地域課題が顕在化した、と考える



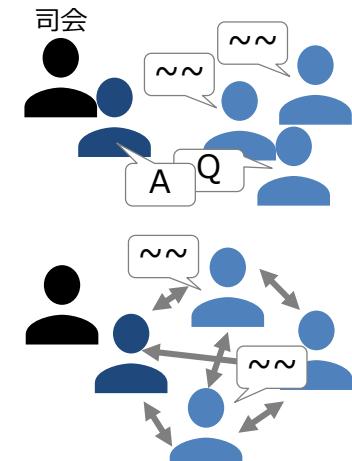
## ● 4. 実践の場の企画案 一 内容

現時点では、テーマ毎に2名程度が全体に向けてミニプレゼンを行った後、テーマ毎のグループで意見交換を実施し、その結果を全体会で共有する流れを想定しています。実施内容に改善点がないかご意見ください。

①ミニプレゼン	ミニプレゼン登壇者から全体に向けて、以下を紹介（テーマ毎2名程度） <ul style="list-style-type: none"><li>・取り組みの背景となった地域課題と着眼点</li><li>・これまでの取組の概要</li></ul>
---------	--



② 意見交換	②-1 参加者からの紹介・質問	ミニプレゼン登壇者以外の意見交換参加者より、グループ内で以下を発言 <ul style="list-style-type: none"><li>・各参加者の取組（概要、順調な点、苦労している点、今後の連携に役立つ知見など）</li><li>・登壇者のプレゼンの内容への質問、意見</li></ul>
	②-2 テーマに対する意見交換	グループ内の参加者同士（ミニプレゼン登壇者含む）で以下を議論 <ul style="list-style-type: none"><li>・テーマに関する今後の期待や課題、気づき</li><li>・各自の取組を広げる・深める方法等</li></ul>



③全体会	意見交換の結果を各グループの司会（ファシリテーター）が取りまとめ、全体に向けて発表。
------	--



### 意見交換のアウトプット

- ✓ プrezentされた取組事例や、各参加者の意見から得られた知見の共有
- ✓ 各参加者の気づき、取組の拡大、深化
- ✓ 各参加者の今後の活動へ向けての元気づけ

## ● 4. 実践の場の企画案 一 形式

開催形式（特に意見交換の部分）は以下3つの案が考えられ、今後、新型コロナウイルスの状況を考慮しつつ判断する予定です。

現時点では、各形式の留意事項への対応策について議論させてください。

	特徴	留意事項
1 現地のみ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 浜通り在住の方や、直接行く熱心な方が多く集まると考えられる</li><li>・ 対面で話せるため、オンラインより意見交換しやすい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 離れた地域との連携を生みにくい</li><li>・ 「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」下では、参加者数を比較的少人数にする必要がある</li></ul>
2 現地 + オンライン	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 意見交換のテーマが具体的かつ参加者のニーズにも合致している場合に適している（オンライン参加者が傍聴するだけでも満足できる、難易度が高くても発言しようと思える）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ オンライン参加者が意見交換に混ざることは難易度が高い（現地参加者の方が多い場合は特に）</li></ul>
3 オンラインのみ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 参加者の所在地に関わらず、双方向・自由に意見交換を行いたい場合に適している</li><li>・ 参加者にとって気軽に参加しやすい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 気軽に参加できるため参加者数は増えうる可能性がある</li><li>・ 完全オンラインでの意見交換に不慣れな人や初対面の場合に難易度が高く、アウトプットを出しにくい恐れがある</li></ul>